茨木市制施行
70周年記念事業

川端康成 青春文学賞

小説の傑作が出来るをうたがわない。

応募期間　平成30年6月30日まで（当日消印有効）

選考委員（予定）

羽田圭介（小説家）

津村記久子（小説家）

大野裕之（脚本家）

「小説の傑作が出来るをうたがわない」――これは、ノーベル文学賞作家の川端康成が、旧制茨木中学校（現大阪府立茨木高等学校）在学中に記した日記の言葉です。川端康成が学んだ教育のまち茨木は、今年で市制施行70周年。それを記念して、文学賞を創設しました。

次なる茨木へ。

主催／茨木市　協力／（公財）川端康成記念会、㈱中央公論新社、学校法人追手門学院、立命館大学
後援／（一社）茨木市観光協会　問合先／大阪府茨木市市民文化部文化振興課☎ 072-620-1810

募集要項

大阪府茨木市は、康成が幼少期から青年期にかけて過ごしたまちであり、今年、市制施行70周年を迎えます。さらに、本年が康成のノーベル文学賞受賞から50周年に当たることから、康成が学んだ教育のまち茨木をPRするため、記念事業として「川端康成青春文学賞」を創設しました。康成が作家を志したのは、ここ、茨木の地。まだ世に出ていない傑作をお待ちしています。

募集期間

平成30年（2018年）6月30日㈯まで
※メール・電子フォームは必着、郵送は消印有効

募集内容

日本語で書かれたオリジナルの未発表小説（ショートストーリー）とし、恋愛、ミステリー、ホラー、SFなど、ジャンルは不問。若い世代の応募を歓迎し、みずみずしい感性で青春を描いた物語を期待します。

賞及び賞金

大賞（1篇）50万円、優秀賞（1篇）20万円、佳作（2篇）7万円（予定）
大賞作品は、㈱中央公論新社の月刊『中央公論』に掲載します。

発　表

発表及び表彰式は平成30年（2018年）12月頃を予定。入賞者に直接通知するほか、茨木市ホームページ等で公表します。

応募規定

⑴日本語で書かれた未発表作品であること。
⑵メール、電子フォーム、郵送のいずれかで応募（メール、電子フォームを推奨）。400字詰原稿用紙換算で10枚～30枚とし、原稿の左下に通し番号を記入。鉛筆書きは不可。パソコン原稿の場合は、A4判のマス目のない用紙に30字×40行・たて書きで印字。データ形式はWord文書のみ受付（様式は茨木市ホームページからダウンロード可）。
⑶表紙に題名、氏名（ペンネームの場合は本名も併記）、ふりがな、生年月日、年齢、性別、住所、連絡先（電話番号、あればメールアドレス）、公募を知った媒体名（ちらしなど）、パソコン原稿の場合は400字詰原稿用紙換算枚数を明記してください。
⑷応募原稿はいかなる場合も返却しません。必要であればあらかじめコピーしておいてください。応募後の原稿の修正はできません。
⑸選考に関するお問い合わせには一切応じられません。
⑹選外の通知はいたしません。
⑺入賞作品の一切の権利は主催者に帰属します。
⑻入賞作品は二次利用（脚本化・漫画化など）する場合があります。
⑼入賞者の氏名・年齢等については、報道機関に提供することがありますのでご了承ください。

応募先

茨木市市民文化部文化振興課「川端康成青春文学賞」係
〒567-8505　大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
✉ novel @ city.ibaraki.lg.jp
URL https://www.koubo.co.jp/system/contest/ibarakikawabata/form/

選考委員（予定）

羽田圭介　小説家。高校在学中の2003年、17歳の時に「黒冷水」で第40回文藝賞を受賞し、デビュー。2015年、「スクラップ・アンド・ビルド」で芥川賞を受賞。その他の著作に『「ワタクシハ」』『成功者K』など。

津村記久子　小説家。2005年、「マンイーター」（単行本化の際「君は永遠にそいつらより若い」に改題）で第21回太宰治賞を受賞し、デビュー。2009年、「ポトスライムの舟」で芥川賞を受賞。2013年には「給水塔と亀」で第39回川端康成文学賞受賞。ほかの受賞歴に、野間文芸新人賞、芸術選奨新人賞など。その他の著作に『ミュージック・ブレス・ユー!!』『この世にたやすい仕事はない』など。

大野裕之　脚本家・プロデューサー、日本チャップリン協会会長。川端康成ゆかりの茨木高校卒。2014年、映画『太秦ライムライト』のプロデューサーと脚本を担当。ファンタジア国際映画祭最優秀作品賞、ニューヨーク・アジアン映画祭観客賞など国内外13の賞を受賞。ほか、サントリー学芸賞受賞など。川端康成を敬愛し、2017年のエッセイ集『京都のおねだん』でも、川端に頁を割いている。

茨木市は、大阪府の北部、大阪や京都の市街地の中間地点にあり、豊かな自然と交通の利便性に恵まれたまちです。世界的に貴重なキリシタン遺物をはじめ、古墳、本陣など、歴史を伝える遺産や文化的伝統が今も息づいています。また、多数の大学・高校が集まる本市では、教育委員会、小・中学校が一丸となり、児童生徒の学力向上をきめ細かく支援しています。その取組みの一つである「一人も見捨てへん」教育体制は、全国から注目を集めており、着実に成果を上げています。
昨年、多くの市民のみなさまの想いを踏まえ、ブランドメッセージとして「次なる茨木へ。」を作成しました。ブランドロゴの黄色い斜めのストライプは地軸と同じ傾きで、多様に変化していく明るい未来を表しています。また、「次々とひろがる、はてしない未来」のイメージを広げ、これからの茨木への期待感と活動意欲を喚起したいとの願いが込められています。